

鶏舎、畜舎における野生動物の防除

野生動物から受ける影響を
最小限にとどめるためには
三つの視点が必要です

野生動物の対策はこれらを
組み合わせて実施しましょう



環境整備（野生動物の餌資源の除去）

農場の周辺には、野生動物にとって魅力的な餌が多く存在しており
それが簡単に得られることを知ると、野生動物が頻繁に訪れます。



“農場へ鳥獣を集める力”である
餌の存在は捕獲や駆除で追い払う
際や防除によって守る際に非常に
大きな障害となります。

特に飼育動物の飼料などは少量
であっても周辺に残さないように
注意し、野生動物が接することの
ないよう適切に処分しましょう。



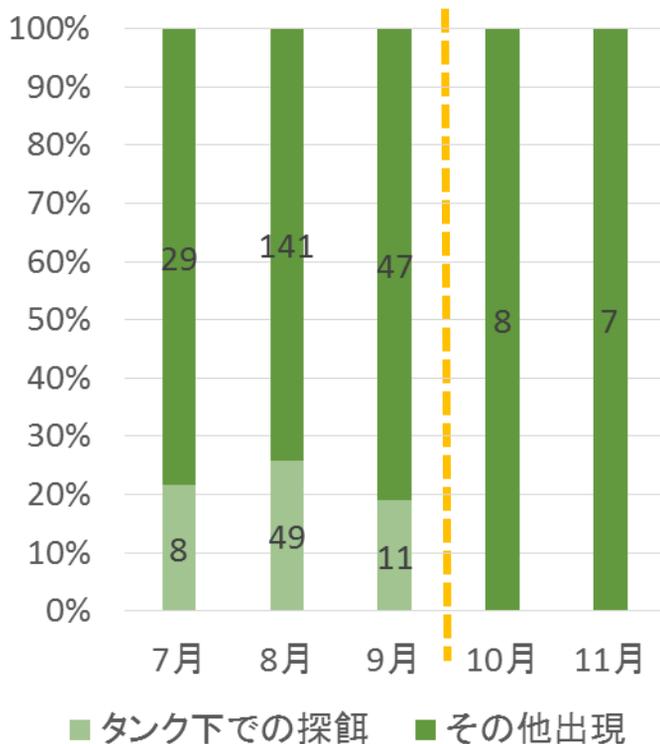
防除 <フェンスの設置・補修や電気柵>

フェンス等で施設を囲っている場合でも、定期的に点検しましょう。特にフェンスの下部を何度も破られる場合は十分な補強が必要です。



適切に設置した電気柵は、効果的で安全に獣類の侵入を抑制できます。ただしフェンスと同様、定期的な見回りとメンテナンスが必要です。

防除前(7,8,9月)と後(10,11月)の飼料タンクでのイノシシの行動



防除は非常に重要な対策ですが、設置して終わりではありません。施設周辺で獣類の痕跡が見つかった場合は防除状況をよく確認し、根気よくメンテナンスや補修を続けましょう。

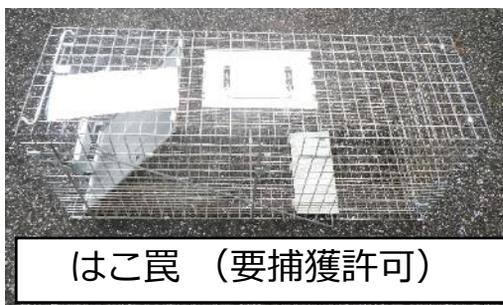
畜舎内への鳥類の侵入は、テグスやネットで防除しましょう。

捕獲 <飼育舎へ侵入する可能性のある中型哺乳類について>



アライグマ・ハクビシンのような獣類は木登りなどの行動が得意なため、畜舎内に侵入することが多くフェンス等も乗り越えてしまうため、リスクの高い生物です。

これらの存在を確認したら自治体へ相談し、捕獲を検討しましょう。



トラップカメラによるモニタリング <対策の前提>

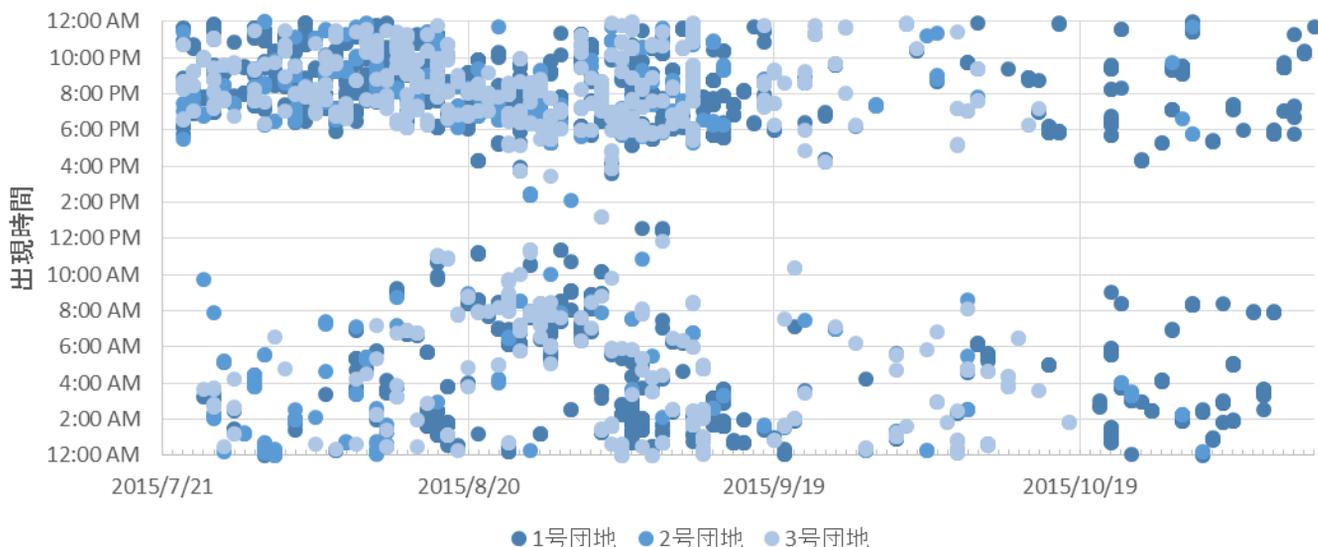
鳥獣の侵入は気付きにくく、夜間の動向は容易に確認・把握ができません。

その存在に気付いた場合、かなりの頻度で鳥獣が出没している可能性があります。

どのような鳥獣が出没するか、対策が効いているか、どの時期や場所に多いのか等を確認するために、トラップカメラの運用を検討しましょう。



ある農場での団地ごとのイノシシの出没状況の把握例



畜舎におけるネズミ対策

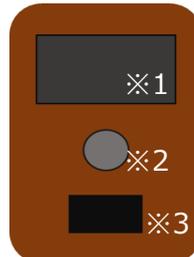
【ネズミ出没のリスク】

1. 感染症の伝搬（ネズミ⇒家畜、ネズミ⇒人）
2. 電気配線等が齧られることによる漏電で停電または火災
3. 畜舎壁内の断熱材に穴を開け畜舎環境の悪化

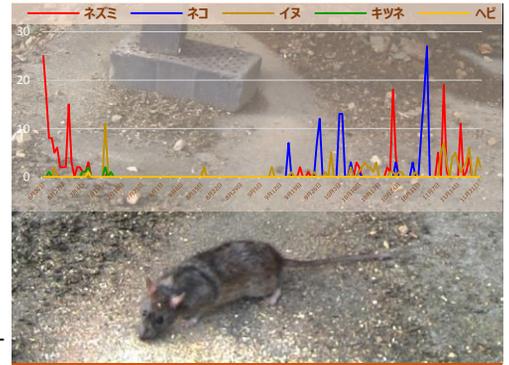
【対策】

① 出没状況を確認

- ☑ トレイルカメラ →
- ☑ 糞量



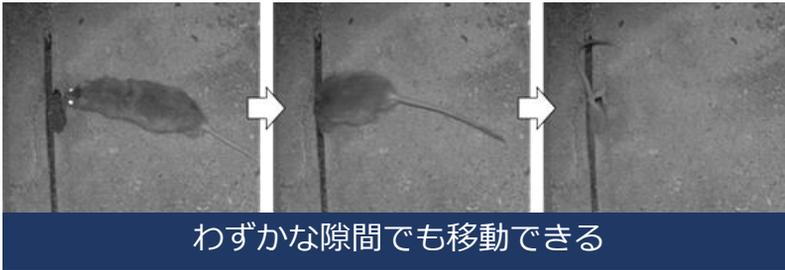
- ※1 赤外線LED
- ※2 レンズ
- ※3 赤外線センサー



② 餌の除去

- ☑ 餌箱の密封
- ☑ 飼料保管庫の密閉
- ☑ 給餌器周辺や糞尿排路等の清掃

③ 侵入・移動経路や棲み家となる隙間を塞ぐ



わずかな隙間でも移動できる



移動経路を金網で塞ぐ例

④ 殺鼠剤を適切に設置

- ☑ カメラによる出没時期や場所を把握
- ☑ 誘引飼料への馴致
- ☑ 定期的に殺鼠剤の設置



⑤ 捕獲

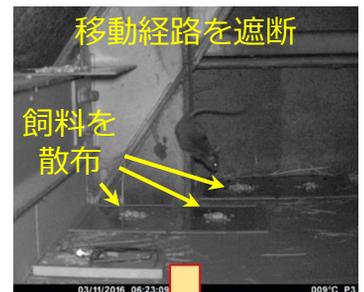
- ☑ 捕獲許可

ドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミ
および農林業の事業活動に伴いやむを得ず行われる他のネズミ類、モグラ類の
捕獲は、捕獲許可を要しません

- ☑ 捕獲方法

罠：粘着シート、かご罠

餌：家畜飼料や新鮮な誘引餌を使うことで
罠付近への出没回数を大幅に増やすこと
ができます



脱皮阻害剤（IGR 剤）の投与方法

幼虫（ウジ）の発生場所を特定する

- 適度の水分含量の糞便
- 長期間（夏場なら一週間）糞尿がたまっているところ
- 動物が踏みつけていない場所
- 温度が 47℃以上に上がる場所は基本的にいない
- 例、堆肥場、畜舎の隅



使用時期	散布場所	散布方法
<ul style="list-style-type: none"> - ハエの発生する前（3月ごろ）から実施する - 3月～5月と11月に月1回、6月と10月は月2回、7～9月には毎週実施する 	<ul style="list-style-type: none"> - 幼虫の発生場所に散布する - 幼虫の発生源を見つけしだい、散布場所に加える 	<ul style="list-style-type: none"> - IGR 剤は 20g/m² 散布する。20g は大人の片手一握み程度 - 手袋とマスクをつけて実施する - 動物には薬をかけない。 - 飼料、給餌器、飲水器等には散布しない

農場外からのハエの侵入について

- 成虫の移動範囲は 100-500m です。ほとんどのハエは農場内を移動します。
- 外部からのハエの侵入はほとんど無視して大丈夫です。



研究推進会議の開催状況、研究成果の発表(論文、特許等)等

試験研究課題名	畜産農場における食中毒菌汚染低減に向けた野生動物の侵入防止策及び衛生害虫まん延防止策の確立												
課題番号	(1) 研究推進会議等開催回数	(2) 行政が活用しうる成果の有無	(3) 学術論文数		(4) 口頭発表回数		(5) 出版図書数	(6) 国内特許権等数		(7) 国際特許権等数		(8) 報道件数	物品購入の有無
			和文	欧文	国内	国際		出願	取得	出願	取得		
2604	10	有	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	有

(1) 研究推進会議等の開催実績

区分: ①推進会議、②現地検討会、③その他

区分	推進会議の名称	年月日	開催場所	参加者数	消費・安全局担当官の出席有無	主な議題及び決定事項
①	平成26年度レギュラトリーサイエンス第1回研究会議	平成26年6月10日	岐阜大学連合大学院会議室	13	有	平成26年度の研究計画他を議題とし、試験内容が決定された。
①	平成26年度レギュラトリーサイエンス第2回研究会議	平成27年2月27日	岐阜大学連合大学院会議室	16	有	平成26年度の研究成果を共有し、次年度の試験計画を議論した。
①	平成27年度レギュラトリーサイエンス第1回研究会議	平成27年6月18日	岐阜大学連合大学院会議室	13	有	平成27年度の研究計画他を議題とし、試験内容が決定された。
①	平成27年度レギュラトリーサイエンス第2回研究会議	平成27年11月16日	岐阜大学サテライトキャンパス	16	有	平成27年度の研究の進捗及び成果を中間報告した。
①	平成27年度レギュラトリーサイエンス第3回研究会議	平成28年2月26日	岐阜大学サテライトキャンパス	13	有	平成27年度の研究成果の報告と次年度計画を議題とした。
②	協力農場現地検討会	平成28年3月3日	岐阜アグリフーズ本社	17	有	協力農場で一連の調査内容と成績について説明し、意見交換を行った。次年度も継続して協力してもらうことを約束した。
①	平成28年度レギュラトリーサイエンス第1回研究会議	平成28年5月26日	岐阜大学サテライトキャンパス	15	有	平成28年度の研究計画他を議題とし、試験内容が決定された。

③	平成28年度微生物検査等実務者打ち合わせ	平成28年9月27日	岐阜大学サテライトキャンパス	7	無	今年度の進捗と下半期の研究の進め方について議論した。
①	平成28年度レギュラトリーサイエンス第2回研究会議	平成28年12月7日	岐阜大学サテライトキャンパス	19	有	平成28年度の研究の進捗及び成果を中間報告した。
②	協力農場現地検討会	平成29年2月17日	兼松農場(関市)	4	無	協力農場で一連の調査内容と成績について説明し、意見交換を行った。

(2) 行政が活用しうる成果

区分: ①行政がすでに活用した成果、②行政が活用する目途がたった成果

区分	成果の内容	主な利用場面	活用状況	機関名
②	農場敷地内への野生動物の侵入防止対策	今後は、野生動物の侵入が疑われた農場において、自動撮影カメラ等を利用して侵入動物を特定するとともに、具体的な対策指導に利用する。	農場への飼養衛生管理基準の遵守を促進するため、野生動物侵入が確認された協力農場(P-D農場)で現地検討会を実施した時に野生動物対策法に関する説明資料として活用した。	岐阜県家畜保健衛生所・岐阜大学
②	農場におけるハエ発生防止対策	夏場にハエが大量発生する農場で、農場への飼養衛生管理基準の遵守を促進するために次年度以降衛生指導する時に使用する。	中課題3でハエ対策を実施した酪農農場で試験計画で説明した内容を取り纏めたもので、ハエ対策実施農場での調査結果の説明時に活用した。	岐阜県家畜保健衛生所・岐阜大学

(3) 学術論文

タイトル、著者名、学会誌名、巻、ページ、発行年月	機関名

(4)口頭発表

タイトル、発表者名、学会等名、発表年月	機関名
TaqManリアルタイムPCRを用いたブタ消耗性疾患関連病原体の網羅的診断法の開発 土赤 忍 ^{1, 2} 、岸本麻衣 ¹ 、増田恒幸 ⁶ 、長井 誠 ^{1, 2, 3} 、大松 勉 ^{1, 3} 、青木博史 ⁵ 、浅井鉄夫 ³ 、水谷哲也 ^{1, 3} (農工大国際家畜感染症防疫研究教育センター ¹ 、農工大獣医伝染病学研究室 ² 、岐阜大学連合獣医学研究科 ³ 、日本獣医生命科学大学 微生物・感染症学研究分野 ⁵ 、鳥取県倉吉家畜保健衛生所 ⁶) 平成25年度 日本獣医師会獣医学術学会年次大会 平成26年2月21日(金)~23日(日)	東京農工大
農場周辺で採集した衛生害虫および野生動物糞便からの家畜伝染性疾患遺伝子検出と分子疫学 青木博史 ¹ 、梅津萌子 ¹ 、大津桂子 ² 、齋藤恭子 ² 、浅井礼子 ² 、塩川舞 ¹ 、大松勉 ³ 、水谷哲也 ³ 、浅井鉄夫 ⁴ 1日本獣医生命科学大学、2岐阜県中央家畜保健衛生所、3東京農工大学、4岐阜大学大学院 第47回獣医疫学会学術集会 平成28年3月20日(日)	日本獣医生命科学大学

(5)出版図書

区分:①出版著書、②雑誌、③年報、④広報誌、⑤その他

区分	著書名、(タイトル)、著者名、出版社名、発行年月	機関名
④	日本SPF豚協会便り(ネズミによる被害を防ぐ)森部絢嗣、一般社団法人 日本SPF豚協会、2016年4月1日	岐阜大学
④	日本SPF豚協会便り(誘因餌をなくす)森部絢嗣、一般社団法人 日本SPF豚協会、2016年10月1日	岐阜大学
④	日本SPF豚協会便り(ネズミ対策~カメラによる状況把握と駆除)森部絢嗣、一般社団法人 日本SPF豚協会、2017年1月1日	岐阜大学

(6)国内特許権等

特許権等の名称	発明者	権利者 (出願人等)	特許権等の種類	番号	出願年月日	取得年月日	機関名

(7)国際特許権等

特許権等の名称	発明者	権利者 (出願人等)	特許権等の種類	番号	出願年月日	取得年月日	機関名

(8)報道件数

区分:①プレスリリース、②新聞記事、③テレビ放映

区分	記事等の名称	掲載紙・放送社名	年月日	機関名	備考